

立山黒部ジオパーク

立山黒部ジオパークは、富山市から下新川郡朝日町までの富山県東部一帯に広がるジオパークです。この地域には、氷河を抱く3,000m級の立山連峰から深さ1,000mの「天然のいけす」富山湾まで、高低差4,000mのダイナミックな地形と、約38億年に及ぶ歴史を語る大地の上に、多様な動植物、おいしい水、独特の文化などが凝縮された、世界に誇れる地域です。



ジオパークとは

ジオパーク(大地の公園)とは、大地の遺産である地域の自然や文化を学び、楽しみながら守り次世代へ伝えていく活動です。

大好き！
ジオパーク！

製作・発行：特別天然記念物 魚津埋没林博物館
〒937-0067 富山県魚津市駅通814
TEL: 0765-22-1049
http://www.city.uozu.toyama.jp/nekolnd/
2015年11月発行



博物館から飛び出そう!

魚津のジオめぐりマップ

“歴史とジオ編”
UOZU GEO MAP



1 江戸時代以前から変わらぬ名所

蜷気楼展望地点



江戸時代に書かれた書物では、戦国時代に上杉謙信が魚津で蜷気楼を觀賞したとされている。春を中心に気まぐれに姿を見せる魚津の蜷気楼は、江戸時代前期から全国に知られ、現在も多くの観光客の憧れとなっている。

3 盛り上がっていたかつての生活用水

てんこ水と鴨川



片貝川扇状地扇端部の湧水。鴨川の底からご飯の“てんこ盛り”のように湧き出る様子が見られる。かつて周辺では、水の湧く川底に土管などをかませ、その水を導水して生活用水として利用していた。

(魚津市本町2丁目)

5 江戸時代の海運基地

魚津港と万灯台



急流で船が入れない早月川・片貝川に対し緩やかな角川河口は、江戸時代には魚津地域の港として数多くの船舶が入り出した。万灯台は江戸末期に船舶の安全のため設置され、灯火の絶えることのないよう維持されたという。

(魚津市新角川1丁目)

7 万葉集ゆかりの伴家持の歌碑

伴家持歌碑(早月川)



「立山の雪し来らしも延槻の河の渡り瀬あぶみ浸かすも」(伴家持・万葉集巻17)奈良時代に越中国司として赴任した歌人伴家持が越中国内巡視で早月川を渡った際に詠んだ歌。

(魚津市三ヶ)

2 かつては白砂青松の鯛網の名所だった

たてもんと信濃浜



魚津港～諏訪神社付近の海岸はかつて信濃浜と呼ばれ、広い砂浜が広がっていた。ここで行われる豊漁と航海安全祈願の「たてもん祭り」は国の重要無形民俗文化財。昔は砂浜で引いたため車輪でなくそりの台座が特色。

(魚津市諏訪町)

4 棧橋が作れない急な海底

米騒動と海底地形



大正時代、魚津には蒸気船が入れる港はなく、沖合で急に深くなる地形で棧橋も建設できないため、貨物の積み下ろしには小舟のはしげが使われた。米騒動は、浜の女性がはしげへの米の積み込みを妨害したことが発端とされる。

(魚津市本町1丁目)

6 河川と低湿地で天然の守り

魚津城跡



魚津城は北陸道や角川河口の港など海陸の交通が交わる要衝に築かれ、また越中と越後の接点ともなる重要拠点。本能寺の変とも絡んだ悲劇的な魚津城の戦いでも知られる。現在は小学校敷地で遺構は地下に埋れている。

(魚津市本町1丁目)

8 上杉景勝が見た風景

天神山城跡



天神山は片貝川と布施川の浸食によってできた小高い山(163m)。魚津一帯の平野部を見渡せるこの場所に天神山城が築かれた。松倉城支城の一つ。1582年の魚津城の戦いの際には援軍にきた上杉景勝が入城した。

(魚津市小川寺)

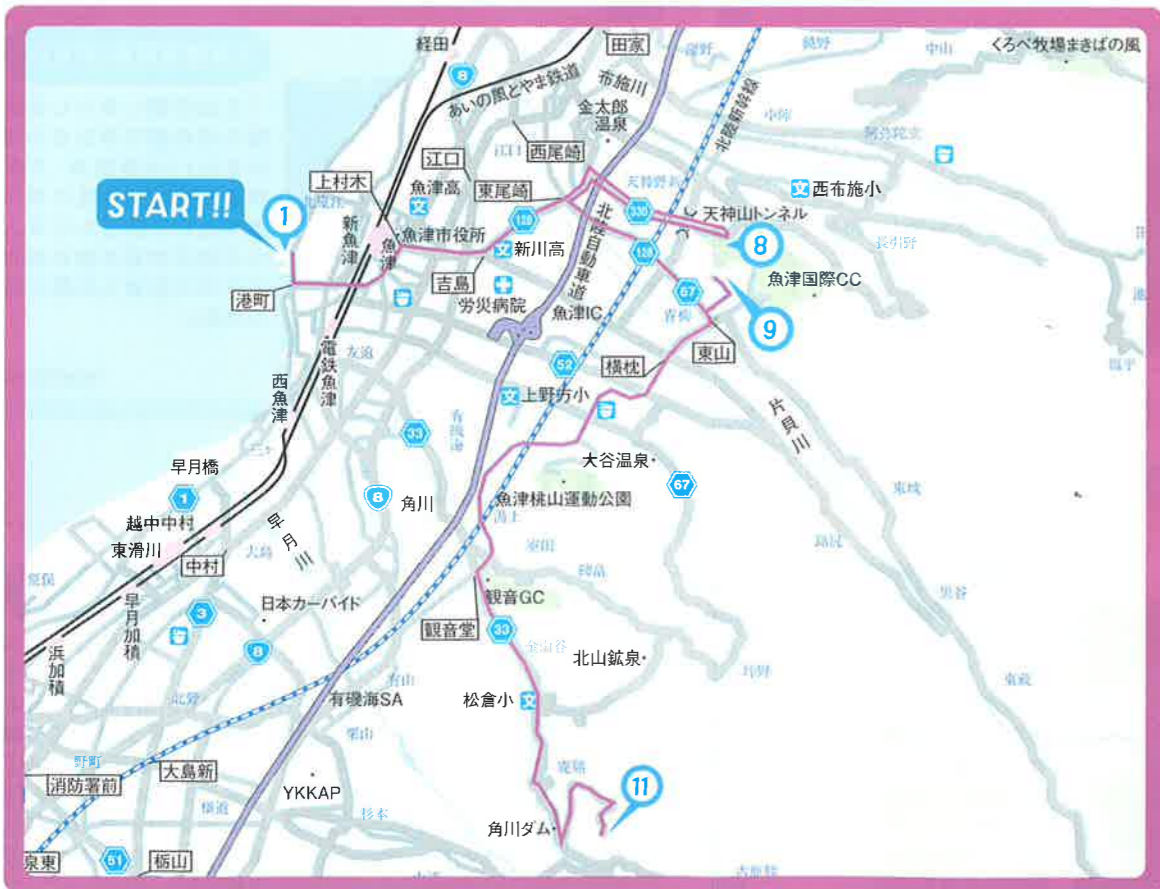
ピックアップモデルコースマップ



Aコース 海岸の歴史とジオを訪ねる (駐車場が少ないため徒歩か自転車がおすすめ)

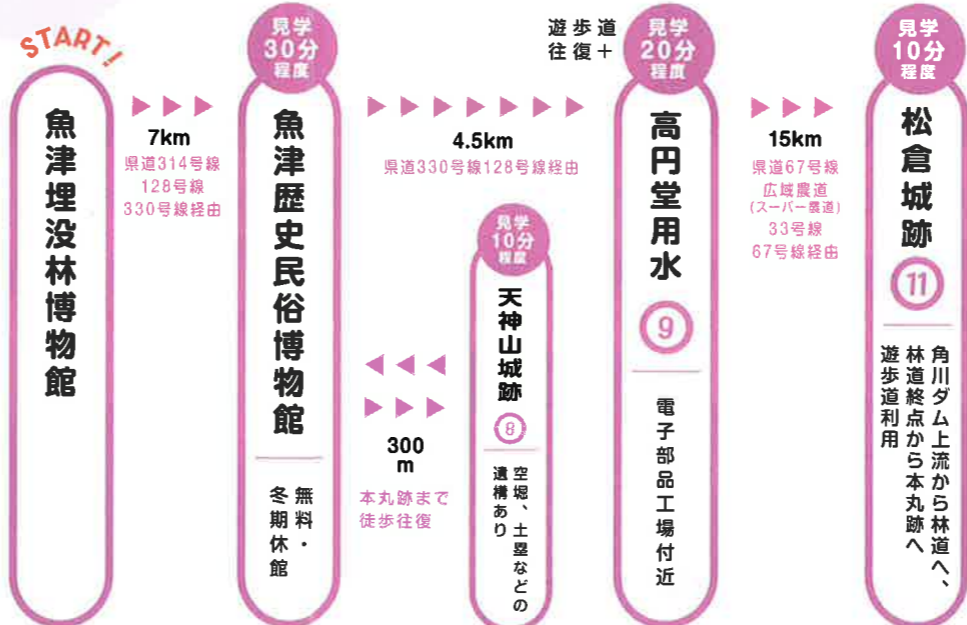


全体所要時間の目安: 徒歩で2時間、自転車で1.5時間程度



Bコース 丘陵地帯の歴史とジオを訪ねる (距離が長いので自家用車移動がおすすめ)

※天神山・高円堂用水・松倉城跡周辺はクマ・スズメバチ等の生息地です。鈴を携帯するなど十分にご注意下さい。



全体所要時間の目安: 自家用車で3時間程度

9 崩れやすい地質に先人の苦勞



高円堂用水

江戸時代、天神野台地を開墾するため高円堂谷を埋め立てて造られた用水。もろく崩れやすい礫層のため難工事となり、完成後もたびたび崩れて工事が繰り返された。その様子が地元の民謡「布施谷節」に残っている。

(魚津市東山)

10 万葉集ゆかりの太伴家持の歌碑



太伴家持歌碑(片貝川)

「片貝の川の瀬清く行く水の絶ゆることなくあり通ひ見む」(太伴家持・万葉集巻17)奈良時代に越中国司として赴任した歌人太伴家持が片貝川の清流を詠んだ歌。

(魚津市黒谷)

11 越中東部の要衝にして最大級の山城跡



松倉城跡

松倉城は、14世紀の築城以降戦国時代まで越中東部の重要拠点として様々な武将が暮らした。急斜面や河川に囲まれた地形と、周囲の山に配した支城群から堅い守りがわかる。本丸からは富山平野～富山湾を見渡することができる。

(魚津市鹿熊)

12 戦国武将～加賀藩の資金源



松倉周辺の金山跡(松倉金山・東谷金山・河原金山)

角川～小早川流域にあった金山跡。14世紀から江戸時代にかけて、戦国武将や加賀藩の資金源となった金銀を産出した。坑道跡は整備されておらず危険なため一般の見学は不可。

(魚津市松倉地区)